

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
税法II Tax Law II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(ファイナンシャルプランナー)	税法Iを履修済みであること
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学、民法I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
日本国憲法、民法II				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川副 令	講義棟2階	初回授業で発表する		授業中に指示します
授業の概要				
<p>一国の税制のあり方は、その国の財政全般に大きな影響を与える。また、私達の生活、企業の経済活動も、税制の如何によって思いのほか大きく左右される。この授業では、税法Iで所得税について学習したことを前提として、法人税や消費税といった他の主たる税制について解説する。</p>				
授業の目標				
<p>(1) 相続税と贈与税の制度趣旨、基本的な仕組みを説明できるようにする。(2) 所得税との類似点と相違点を踏まえながら、法人税の制度設計と基本的な概念(資本取引と損益取引の区別、益金と損金)を説明できるようにする。(3) 消費税の仕組みと制度主旨について、要点を説明できるようにする。(4) 税法の体系を簡潔に説明できるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>まず教科書の関連箇所を読み(受講生の中から担当者を指名する)、その記載内容を分かりやすく説明し直す形で、講義を進める。授業の最後に、次の授業に備えて目を通しておくべき教科書の範囲を指定する。学生の理解度を試すためのクイズを取り入れる。その他は、適宜質疑応答を織り交ぜる程度にとどめ、敢えてオーソドックスな講義方法を採用する。複数の、それぞれに複雑な税制を扱うことに鑑みて、授業内で3回の小テストを実施して復習を促す。</p>				
学習の成果(学習成果)				
<p>(1) 相続税と贈与税の制度趣旨、基本的な仕組みを説明できる。(2) 所得税との類似点と相違点を踏まえながら、法人税の制度設計と基本的な概念を説明できる。(3) 消費税の仕組みと制度主旨について、要点を説明できる。(4) 税法の体系を簡潔に説明できる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業計画、成績評価の方法など)			
第2回目	所得税法の復習その1			
第3回目	所得税法の復習その2			
第4回目	税法の体系			
第5回目	相続税と贈与税、贈与税の仕組み			
第6回目	相続税の仕組み			

第7回目	固定資産税、第1回小テスト
第8回目	法人税の基礎知識：納税者と納税義務、赤字法人、損益取引と資本取引の区別
第9回目	益金と損金
第10回目	棚卸、減価償却の考え方
第11回目	法人税の申告と納付、第2回小テスト
第12回目	消費税の基礎知識：消費税の納税義務者は誰か、課税取引の範囲、基準期間
第13回目	消費税その2：付加価値税、簡易課税制度
第14回目	地方税に関する問題、第3回小テスト
第15回目	総括

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	15%	出席状況に加えて、質疑応答への参加を総合的に評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	45%	各種税制の主要な部分を正確に理解しているか、関連する基本的な語彙が身についているか、を確認する。
試験	40%	上記小テストの項目に加えて、日本の税制の歴史や最近の税制改革の状況についての基本的な知識を試す。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書として、金子宏ほか『税法入門（第7版）』有斐閣新書2016年を使用する。授業で使用するその他の参考資料は、その都度配布する。参考書類は初回授業で一覧を配布して説明する。

履修上の留意点・ルール

初回授業で説明する。